

# 欧州の金融緩和について

2012年7月9日

7月5日、欧州中央銀行(以下、ECB)は政策金利を0.25%引き下げ、従来の1.00%から0.75%とする金融緩和策を発表しました。この利下げによって、欧州の政策金利はECB創設来、過去最低水準となりました。また同日イングランド銀行は国債買い入れ増額による量的金融緩和策の拡大を発表しました。

## 《市場予想通り、ECBが利下げ》

ECBが利下げに踏み切った背景には①ユーロ圏の景気後退懸念、②欧州債務問題を受けた各国の緊縮財政による景気への悪影響、これらに対し金融政策で景気を下支えるためと考えられます。さらにこれまで良好だったドイツの景況感が鈍化していることも、ECBの金融緩和の実施を後押ししました。

英国でも景気の停滞が続いており、金融面から景気を下支えるため、国債を買い入れて金融市場に資金を供給する量的緩和の枠を増額しました。

## 《今後の見通し》

### ●景気見通し

IMF(国際通貨基金)では、ユーロ圏経済の2012年実質GDP成長率を-0.3%とマイナス成長を予測しています(IMF World Economic Outlook 2012年4月)。

ユーロ圏の2012年第1四半期の実質GDP成長率は-0.01%と2四半期連続のマイナス成長となりました。5月のユーロ圏失業率も、過去最悪の11%台となっており、足元の景気は後退局面に入っています。

しかし、景気対策のための追加的な金融緩和策も今後想定されること、欧州首脳会議でのドイツの姿勢緩和、スペインの銀行資本の増強決定に加え、新たな成長・雇用政策も打ち出されています。景気の急回復は期待できないものの、さらなる悪化には歯止めがかかるものと思われます。

### ●為替見通し

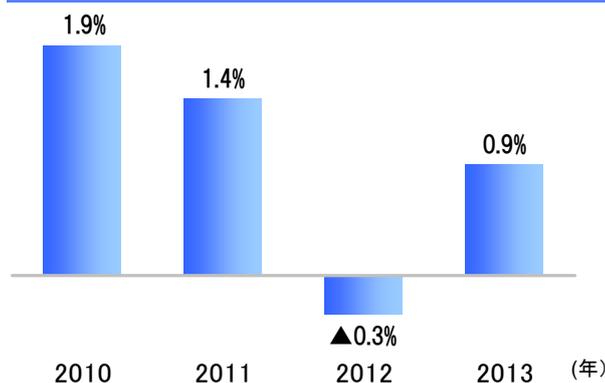
ユーロは4月以降、ギリシャのユーロ離脱観測、スペインの国債利回り急上昇などの不安要因から、軟調な展開が続いていました。

しかし、ギリシャ再選挙での財政緊縮派の勝利、EU首脳会議後の追加の資金投入発表などのプラス材料により、一段のユーロ安には歯止めがかかっています。欧州債務問題の解決には時間がかかると見られることから、引き続きEUの対応を注視する必要があります。



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

## 《ユーロ圏の実質GDP成長率》



(期間 2010年～2013年 2012年、2013年は予測値)

出所：IMFデータより明治安田アセットマネジメント作成

## 《ユーロの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。